

プレゼンテーションの実際 ～大阪女学院図書館～

H22年度 学術情報リテラシー教育担当者研修

2010年10月21日(木)

大阪女学院図書館 高橋 りさ

大阪女学院大学

2004年4月開学



| | |
|------|--|
| | |
| 学生数 | 大 学(国際・英語学部)601名、 大学院(21世紀国際共生研究科)2009年4月開設 3名、 短大(英語科)299名 (1968年開学) 中学・高校1,591名 |
| 図書館 | 蔵書冊数:約16万冊 |
| 図書館員 | 専任4名、嘱託3名、常勤バイト1名、派遣職員1名 |
| 開館時間 | 8:30～21:00 |

本学のリテラシー教育の特徴

教員と図書館員との連携の伝統

1. 図書館活用を必要とするカリキュラム
2. 基本的な情報リテラシー教育は必修科目
3. その上に図書館員は主題別情報探索法等の指導を行うことが出来る



1. カリキュラムの仕組み **発信型**

英語を  英語で

コンテンツベース
テーマについて
聞き 話し
読み 書く

主体的な情報収集が必要



2. 基礎的事項は教科目で

1年次 全員必修

デジタルネットワーク 基礎

- ネットワーク上の学習資源であるメール
- 学習管理システム(LMS)
- 情報発信システム(Weblog)
- 基礎的アプリケーション
- 情報倫理

情報の理解と活用

- レファレンス資料、OPAC、
- 書誌・索引データベース
- 統計資料、インターネット情報
- 批判的読み(論文・新聞記事を例に)
- 論文のまとめ方(日本語・英語)
- プレゼンテーション技法
- 小論文作成(6000字)

3. 図書館の指導サービス

| | |
|-------------|---|
| オリエンテーション | 新入生、新任教職員、非常勤講師、留学生 |
| 授業のサポート | 授業「情報の理解と活用」の課題実習のサポート その他 |
| 利用指導 | 学科関連指導 各授業で必要とされる主題別情報探索法を、教員の依頼により、図書館員が、その授業の一部として行う。 |
| メディア | パスファインダー、ブックリスト 図書館ホームページ、図書館作成新聞記事ファイル |
| 講習会 | 希望者対象、テーマ別、DB指導、個別対応 |
| レファレンスサービス | 個別対応 |

リテラシー教育の効果の検証

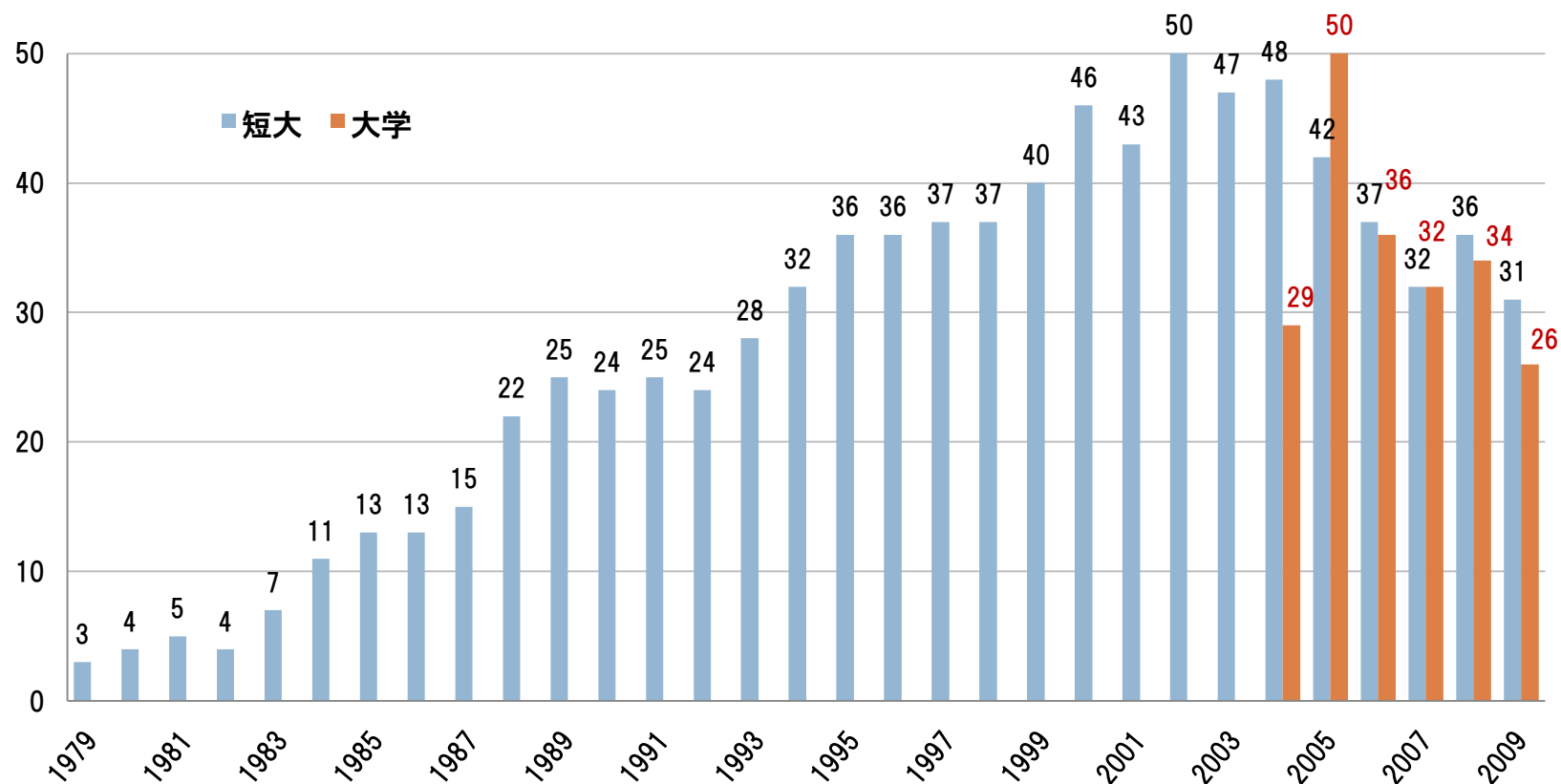
主体的な学びの力がついたか？



図書の出冊数

(教員依存から自主的学習)

一人当たりの年間貸出冊数の変遷



節目の出来ごと



| | | |
|-----|---------------------------|------|
| 3冊 | 指導ゼロの時代 | 1979 |
| 7冊 | 図書館による「利用指導」開始 | 1983 |
| 11冊 | 情報リテラシー科目設置 | 1984 |
| 22冊 | カリキュラム改革 | 1988 |
| 37冊 | 情報リテラシー科目の必修化 | 1998 |
| 50冊 | 英語の本を読む課題 | 2002 |
| 下降 | + ネット情報の活用 - カリキュラムの変化 | |

見えてきたこと

- 資料・情報を集めただけでは利用されない
- 情報の使い方教育には効果がある
- しかし図書館だけでは限界がある
- 情報ニーズの自覚が必要
- カリキュラムとの統合が必要
- 定着には繰り返しが必要



今回のプレゼンテーション 「利用指導」

学科関連指導

教員の依頼により、図書館員が授業中に授業の
テーマに関する資料の探し方を紹介する
ガイダンス

「利用指導」の例

- **Human Rights :**
International Responsibilities
- **異文化間コミュニケーション**
- **Women Writers in English and American Literature**
- Analysis of Speech
- **アジアの都市化とスラム**
- Studies in English-Japanese Expression

「利用指導」実施のプロセス

- 学期始めに教員へ案内状
- 依頼受付
- 授業の内容研究(シラバスなど)
- 教材準備・作成
- 図書館内で検討
- 提示資料集め、会場設営(図書館内)
- 他の利用者へことわりの掲示
- 実施(教員も出席)
- 評価

会場は図書館、先生も同席



実物を見せながら



「利用指導」の目標

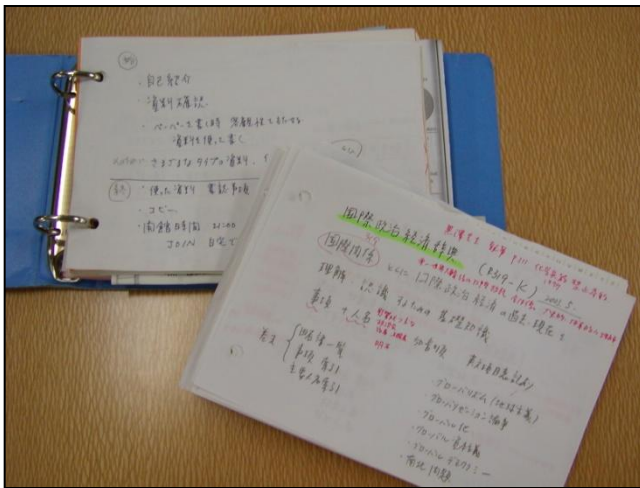
- 調査手順の復習、パスファインダー
- その分野のレファレンスツールの紹介
- その分野の二次資料の紹介
- 情報源の使い方
- アクセスポイント
- 資料の入手法
- 資料の**実物**を見せる
- **図書館員に相談**できることを印象づける

内容

- 館内資料の探し方
- 参考図書を紹介
- 主題図書の探し方
- 雑誌記事の探し方
- 新聞記事の探し方
- 館外資料の入手方法(相互利用)
- その他
- **実物を必ず見せながら説明する**

お助けグッズ

・情報カード



・説明のポイント

- 29. 「国際政治辞典」 (R29)
 - 30. United Nations (Worldmark Encyclopedia of the United Nations v.1) (R29)
 - 31. Basic Facts about the United Nations 国際に関する. WJで(新刊) (R31)
本は「中. 基本日々
 - 32. 「国連要語事典」 PKO(平和維持活動) 国連が (R31)
 - 33. Encyclopedia of International Peacekeeping Operations (1998) 国連が PKO (R31)
 - 34. 「人権百科事典」 国連の人権プログラム理解できるように主要条約, 宣言全文, 各国 (R31)
 - 35. 「国際人権百科事典」 重要な概念, 文書, 組織, 人物. 各年代, 日マ規程. 人権一軍縮カハ (R31)
 - 36. 「開発経済学事典」 貧困, 紛争, 環境はか11etc. 70-111111による 国際開発問題 (R31)
 - 37. Dictionary of globalization 世の英語, Biodiversity, club of roma (R31)
 - 38. 「地球白書」 2009-10 環境, 問題はただでなく (R31)
 - 39. State of the World 2010 地球をまはる 問題を分析し, 提言 (R31)
 - 40. 「地球環境データブック」 2007-08 データが豊富. 毎年同じ観点で分析 (R31)
 - 41. Vital Signs 2010 4年より分析, その年問題がテーマ (R31)
 - 42. 「対日関係を知る事典」 新版 世界と日本の関係. テーブルと国別編. (R31)
 - 43. 「日本外交史辞典」 1953年~1970前年. 日本外交. 144. 3冊. (R31)
- 平和の概念の拡大: 人権, 開発, 環境も含まれる。

評 価

<学生>

「とても役にたった」+「役に立った」

1年:83.8% 2年:75%、

3年:72.2% 4年:83.4%

(2009年度アンケートより)

学生から教員へ「利用指導」の依頼

<教員>

次の依頼、他の教員への口コミ、学生への推薦

<大学>

新館建設で利用指導室の設置

効果

- レファレンス質問の増加
- 紹介した資料の利用増加
- コレクションの充実
- 図書館員のレファレンスカアップ
(資料内容の把握⇒よいサービスへの反映)
- 情報リテラシー能力の定着


情報リテラシー能力の定着には

- くりかえし
- つみ重ね
- 教員も図書館員も



参考資料

- 小松泰信「情報リテラシー科目のeラーニング化に伴う学習支援体制」『現代の図書館』 vol. 45 no.4 (2007.12)190-197.
- 丸本郁子「情報リテラシー教育の評価」『大阪女学院短期大学紀要』no.30 .(2000)31-54
- 坂本恭子「利用者の情報要求を背に受けて:カリキュラムとの連携を追い風に」『図書館雑誌』 vol. 95 no.4 (2001.4)243-245.
- 坂本恭子「授業に結びついた利用教育」『短期大学図書館研究』no.16 (1996).53-63.
- 日本図書館協会利用教育委員会『図書館利用教育ハンドブック 大学図書館版』日本図書館協会 2003
- 大阪女学院図書館ホームページ
(<http://www.wilmina.ac.jp/ojc/Library>)



モデル発表 「国際公共政策」

3、4年生

50分

配布資料